

# フレンズ美術館

～作品展示から生まれるもの～



## 放課後等ディサービスとは

育ちの気がかりさや障がいのある小学生～高校生までの児童を対象に、放課後や休日に子どもたちが過ごす場所の1つとして放課後等ディサービスがあります。ここで、子どもたちはいろいろな活動をして楽しく過ごしています。また、家族が安心して働くのをサポートしたり、子育て等の相談に応じたりすることも大切な役割の1つです。

今回は、フレンズあすわの放課後等ディサービスを利用されている子どもたちが、どのようなことをして過ごしているのかを紹介します。

活動では、次のようなことを行っています。

### ★アート教室・ダンス教室

講師を招いて芸術的・運動的活動に親しんでいます。

### ★創作活動

季節に合わせて作るものを作り、ハサミの使用など指先の動かし方を体得できるように取り組んでいます。

### ★屋外活動

季節に合わせて作るものを作り、ハサミの使用など指先の動かし方を体得できるように取り組んでいます。

### ★季節ごとのイベント

お正月やハロウィン、夏祭り、クリスマス会など、季節に合わせたイベントを企画し、実施しています。

その他にもよさこい、ジャグリング、エンゼルキヤラバン（科学実験教室）などの体験型活動を多く取り入れています。

## 活動の紹介

## 活動提供への職員の思い

私たち職員はこのようなことを思い、日々の活動を行っています。



- 外出することで余暇の幅を広げ、さまざまな経験を積んでほしい。
- 博物館や公園などの公共施設を利用することで、社会性を身につけてほしい。
- 子どもたちの「できた！」長所を見つけ、本人の自信につながる活動を増やしたい。
- ここしかできない体験をさせていただくことで、一人でも多くの子どもたちが「フレンズあすわが安心して過ごせる楽しい場所」と思ってほしい。

活動を楽しんでいる子どもたちの姿を見て、とてもうれしく思っている一方で、次のような課題も感じています。



- 家族は子どもたちが、どのような遊びや活動をして過ごしているのかが、なかなか見えにくいのではないか。
- お迎えの際にその日の出来事を口頭および連絡帳でお伝えしているが、もつとイメージやすい方法でお伝えできないか。
- せつかくの作品なので展示できないか。
- そこで、放課後等デイサービスの出入り口や階段の壁を使い、作品の展示や活動時の写真を掲示することを始めました。



【ダンス教室の一場面】



作品として形に残らない活動などは、写真にして掲示しています。写真は定期的に

### 掲示や 展示物の紹介

に入れ替えています。

左の写真は、利用される子どもたちの作品です。作品の出来栄えなどから、その成長や表現の仕方が見て取れたり、頑張っている姿が想像されたりします。

り、このような効果が生まれました。

### 掲示や 展示によつて…

フレンズあすわでは、子どもたちがどんな活動をして、どのように活動しているのかといったことを、家族と一緒に共有していきたいと考えています。

- 作品の展示や写真の掲示を始めたことで、家族と職員との会話がより広がるようになりました。
- 「作品や写真をもらえたか?」など、家族はそれを手元に届くのを楽しみにしてくださっている。
- 子どもの「できた!」を見て家族が「すごいね」と子どもを褒める機会が増えた。
- 「活動を通してさまざまな体験ができる、本人もとても楽しんでしている」とフレンズあすわが楽しい場所として感じていることをお聞きすることができた。



は本当にうれしいです。

展示や掲示物は、単に観賞するといったことではなく、子どもたちの表現であつたり、家族を強くつなぐ力をもつていると感じています。



### おわりに